

はじめに —アイヌモシリの世界—

今年の7月、私は津島市人権学習講座の講師を務めました。その時にお話をしたのが『アイヌ（ウタリ）の歴史—少数民族と差別について考える—』でした。

教え子がアイヌ民族の記録映画を撮りました。彼からアイヌの人たちが自然を畏怖し、環境と一体となった生活を送っていることを教えてもらいました。それ以来北海道を旅行したら、アイヌ民族の資料館を訪ねたいと思うようになりました。

白老町のポロトコタン（アイヌ民族博物館）、函館市の北方民族資料館、登別の「銀のしずく記念館（知里幸恵記念館）」を訪ねました。特に私は『アイヌ神謡集』を著した知里幸恵さんに関心をもちました。実は「銀のしずく記念館」では、北海道新聞の記者の方から「どうして記念館を訪ねたのか」と取材があり「直筆の知里幸恵さんの原稿やイラストが見たかった。アイヌの歴史について見直したい」と答えたことが新聞記事となりました。津島市の人権学習講座（弥富市文化協会史料部の講演会でも同様）では、これらの体験と博物館の展示内容、アイヌ民族の歴史について報告しました。アイヌの人たちの自然との共生、「ウコチャランケ」（お互いに言葉を下す：お互い話し合う）の姿に心が惹かれるようになりました。日本は大和民族の単一民族の国ではない。アイヌの人たちをはじめ少数民族の人たちが存在し、さらに世界中から様々な人たちが来ていることを再確認しました。

今年度も『実践の歩み・42集』を刊行することができました。今年も人権教育についてあらたな1ページを付け加えました。

今年の本校の実践は「人権総合的学習」と「生活体験」「道徳」とのつながり（関連性）を力説したレポートを作成しました。「あいさつ」「人とのかかわり」「仲間づくり」の3つの重点課題を掲げ、SST（ソーシャルスキルズトレーニング）を継続的に行いました。そして児童の実態に基づいた道徳の授業のあり方を考えてみました。昨年度の研究に続き「為すことによって学ぶ」「知行合一」をめざした実践となりました。また授業研究では聖徳学園大学玉置 崇教授をお迎えし、付箋紙を活用した「スリープラスワン」（授業の良いところを3つ見つけ、改善点について一つ探し合う）の研究もスタートしました。道徳の授業づくりについて考えることができました。

これらの実践に『南っ子の時間』『人権だより』など伝統の教育実践を付け加えました。また『アイアイ集会』では昨年を引き続き、あま市教育相談センターの加藤和正所長を講師に迎えることができました。これらの実践を積み重ね、「研究会だより」としてまとめることができました。この冊子が「チーム南小」の羅針盤の役割を果たしてくれることを期待しています。来年度も子どもたちに「確かな学力」と「豊かな人権感覚」が見につくよう、教育活動を展開するつもりです。そのため私たち教職員も人権感覚を磨き、正しい人権の歴史を認識し、道徳をはじめ授業研究に邁進したいと思います。

最後になりましたが、教育実践を進めるにあたりご支援・ご協力をいただきました愛知県教育委員会（海部教育事務所）・津島市教育委員会・愛知県人権教育研究会・津島市小中学校人権教育研究会の皆様にお礼を申し上げます。更なるご指導・ご鞭撻をお願いして『はじめに—アイヌモシリの世界—』の言葉にかえたいと思います。

平成28年3月
津島市立南小学校
校長 浅井 厚視